

10.12 景観

調査区域には主要な眺望点及び景観資源が存在し、道路の存在による眺望景観への影響が考えられるため、景観の調査、予測及び評価を行いました。

10.12.1 道路（地表式又は嵩上式）の存在に係る景観

1) 調査結果の概要

(1) 調査した情報

調査した情報は以下のとおりです。

また、主要な眺望点からの景観のほかに、身近な自然景観として、地域の人々が日常的に利用している場所等の身近な眺望点からの景観についても、地域の景観特性として把握しました。

- ・ 主要な眺望点の状況（身近な眺望点を含む）
- ・ 景観資源の状況
- ・ 主要な眺望景観の状況

(2) 調査の手法

調査は既存資料調査及び現地調査により行いました。既存資料調査は既存の文献資料による情報の収集及び当該情報の整理により行いました。また、現地調査は写真撮影及び目視により調査を行いました。

(3) 調査地域及び調査地点

調査地域は、調査区域の範囲で、既存の文献資料等により主要な眺望点が分布する地域としました。

調査地点は、主要な眺望点、景観資源との位置関係及び計画路線の位置などを踏まえ、計画路線から約 3km の範囲内で主要な眺望景観に変化が生じると想定される眺望点を設定しました。また、身近な眺望点は地域の人々が日常的に利用している場所で計画路線が視認される眺望点を設定しました。調査地点及び調査対象となる眺望景観を図 10.12.1-1 に示します。

(4) 調査期間等

調査期間を表 10.12.1-1 に示します。

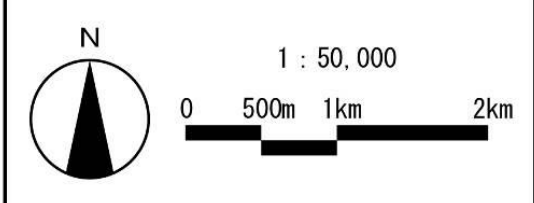
表 10.12.1-1 景観の調査期間

調査区分	調査期間	
現地調査	冬季	平成 31 年 2 月 12 日（火）、2 月 15 日（金）、2 月 17 日（日）、 2 月 18 日（月）、2 月 19 日（火）、2 月 24 日（日）、2 月 26 日（火）
	春季	平成 31 年 3 月 31 日（日）、4 月 1 日（月）、4 月 2 日（火）、 4 月 3 日（水）、4 月 4 日（木）、4 月 9 日（火）、4 月 13 日（土）、 4 月 23 日（火）
	夏季	令和元年 8 月 9 日（金）、8 月 26 日（月）、8 月 29 日（木）
	秋季	令和元年 11 月 13 日（水）、11 月 14 日（木）、11 月 16 日（土）、 11 月 27 日（水）、11 月 29 日（金）



この地図は、国土地理院発行の「1:50,000地形図、東京東北部（平成17年8月24日）・佐倉（平成10年9月1日）」を使用したものである。

- 凡例
- 都市計画対象道路事業実施区域
 - 都県界
 - 市区界
 - 主要な景観資源
 - 主要な眺望点
 - 身近な眺望点



注) 表 10.12.1-3(8)に示す「No.70 キンモクセイ」については、個人宅に位置しており、位置が公表されていないため、本位置図においても図示していない。

図 10.12.1-1 景観調査位置図

(5) 調査結果

a) 主要な眺望点の状況

主要な眺望点及び身近な眺望点の状況を表 10.12.1-2 に示します。

表 10.12.1-2 主要な眺望点の状況

分類	番号	名称	計画路線からの距離	眺望点の状況	所在地
主要な眺望点	A	アイ・リンクタウン展望施設	約 3.2km	地上 150 メートルから、晴れた昼間には江戸川を渡る風を感じながら 360° のパノラマを楽しめ、また夜には都心部から千葉方面まで、壮大な夜景を見渡せることから、「新日本三大夜景・夜景 100 選」にも登録されている。	市川市
	B	里見公園からの東京・江戸川の眺め	約 1.8km	江戸川越しに東京スカイツリーと富士山の眺めが朝焼け・夕焼けともに楽しめる。	市川市
	C	和洋学園のラウンジからの眺め	約 1.9km	18 階ラウンジから江戸川が間近に見下ろせる。	市川市
	D	曾谷の高台からの眺め	約 1.4km	夕日と富士山と東京スカイツリーが一直線に眺められる。	市川市
	E	白幡神社と高台からの眺め	約 2.5km	境内には四季折々の草花が咲き、高台から市内を見渡すことができる。	市川市
	F	北方小学校からの眺め	約 3.2km	子之神社の緑や、春には桜並木が見渡せる。	市川市
	G	高才川緑地公園からの眺め	約 1.6km	斜面上段の遊具広場からの眺めが素晴らしく、眼下に広がる水田や調整池が一望でき、夕暮れ時には、幻想的な風景が映し出される。	船橋市
	H	野菊苑展望台	約 1.8km	西蓮寺から歩道橋を渡った先にある展望台で、富士山を望むことができる。	松戸市
	I	戸定邸	約 2.7km	高台からの眺望景観は、開放感とともに水辺など緑の豊かさが感じられる。	松戸市
	J	江戸川河川敷一帯	約 2.3km	水辺からの眺望景観は、開放感とともに斜面林や農地など緑の豊かさが感じられる。	松戸市
	K	かまがやスカイビュー (鎌ヶ谷市役所屋上)	約 0.8km	天気が良ければ、綺麗な富士山や筑波山が見られるほか、夕方は、夕日に染まる空に富士山と東京スカイツリー、冬の時期の夜は、東京スカイツリーのライトアップや市内の夜景を楽しむことができる。	鎌ヶ谷市
	L	市制記念公園	約 0.2km	展望台からは公園内の樹林や栗野の森を眺められる。	鎌ヶ谷市
身近な眺望点	a	国分川	約 70m	国分川沿いは、周辺住民の散歩道として利用されている。	市川市
	b	大町小学校前	約 60m	市川市立大町小学校の校門前。通学路として利用されており、子供たちをはじめ、地域の住民が日常的に通行している。	市川市
	c	泉ヶ丘自治会館前	約 30m	泉ヶ丘自治会の会館前。周辺住民が日常的に通行している。	松戸市
	d	新鎌ふれあい公園	約 80m	新鎌ヶ谷駅の北口にある公園。周辺には商業施設も立地している。	鎌ヶ谷市
	e	北総線線路周辺	0m～	北総線白井駅から小室駅間の横断道路であり、北総線沿線の桜並木を眺められる。周辺には小中学校があり、住宅が広がっている。	白井市
	f	小室駅付近の橋	0m～	小室駅ホームの南北に樹林が成立しており、橋からも眺めることができる。	船橋市

b) 景観資源の状況

景観資源の状況を表 10.12.1-3 に示します。

表 10.12.1-3(1) 景観資源の状況

番号	名称	位置	標高	資源特性	景観特性
1	江戸川	市川市・松戸市	約 4m	江戸川は、茨城県五霞町・千葉県野田市で利根川から分かれ、茨城県・千葉県・埼玉県・東京都の境を南下して東京湾に注ぐ、流路延長が 54.6km、流域面積が約 200km ² である利根川水系の一級河川である。首都圏の洪水防御、水源の安定的な確保、都市に残された貴重なオープンスペースとしての河川空間の確保など重要な役割を担っている。	特に見頃となる時期はないが、河川沿いには農地、樹林等の景観資源が分布している。
2	国府台斜面緑地	市川市	約 23m	斜面林としてイヌシデ、コナラ、シラカシ、林床は草本、常緑低木やタケ類が優占。平坦部は高木層にイヌシデ、コナラ、低木層にシラカシ、シロダモ、アオキ等の常緑樹、林床には常緑のつる植物が優占している。国分台ふれあいのみちがある。	落葉樹と常緑樹が混在する樹林となっており四季折々の景観を楽しむことができる。
3	堀之内貝塚公園	市川市	約 22m	堀之内貝塚は、千葉県北部に広がる下総台地の最南端に位置する。遺跡は、南を道めき谷津、北を千艘谷津という谷にはさまれた、細い尾根状の台地にある。U 字形をなす斜面の馬蹄形貝塚である。千葉県でも東京に最も近い大型の貝塚であり、林なので耕作の邪魔にならずに発掘できたため、早くから多くの考古学者や愛好家が訪れている。発掘は部分的なものなので、全容は不明。	特に見頃となる時期はないが、丘陵地となっており、周辺の広い範囲から公園の樹林を見ることが出来る。
4	小塚山公園	市川市	約 23m	小塚山公園では、樹林地の保全を進めるため、ボランティアによる活動が行なわれている（清掃、下草刈り、枯損木や外来種等の間伐による樹木の密度調整）。ホオジロ、ムクドリ、シメ、コゲラ、ウグイス、ハシボソガラス、メジロ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カララヒワ、オナガ、モズ、キジバト、ツグミ、スズメ、アオジ等の野鳥が見られる。小塚山公園の森で見られる木には、ムラサキシキブ、ゴンズイ、コブシ、エゴノキ、ヒノキ、アカマツ、イヌシデ、ヤマハンノキ、コナラ、クヌギ、シラカシなどがある。	特に見頃となる時期はないが、丘陵地となっており、周辺の広い範囲から公園樹林を見ることが出来る。
5	じゅん菜池緑地	市川市	約 12m	じゅん菜池緑地は、国府台と国分の台地の間に深く入り込んだ古くからの国分沼を、昭和 50 年度から整備復元を進め、昭和 56 年に完成した。木々に囲まれ、水と緑の憩いの場として親しまれている。ウメ、ツツジ、キンモクセイ、モミジ、カエデ等の木々に囲まれた池である。冬にカモなどが飛来する。	じゅん菜池周辺を樹林に囲まれており、四季折々の景観を楽しむことができる。
6	里見公園	市川市	約 22m	里見公園は下総台地の西端、江戸川に面した台地上にあり、このあたりは国府台と呼ばれ、ここを下総国府が置かれ、下総国の政治や文化の中心であった。昭和 34 年、市川市はこの由緒ある古戦場を記念するために、一般の人々の憩いの場として里見公園を開設した。国府台は標高 20～25m の下総台地の西のはしで、江戸川に平行して南へ張り出した大きな舌状の丘陵であり、現在の里見公園のなかに土塁状の城郭遺構が現存している。	台地の樹林地となっており、周辺の広い範囲から公園樹林を見ることが出来、四季折々の景観を楽しむことができる。
7	梨畑と梨作りの風景 (大町地区)	市川市	約 23m	計画路線周辺に梨畑が広がっている。4 月から 5 月にかけて白い花が棚一面に咲き誇る。一部が計画路線上に存在する。	大町地区で親しまれている景観。四季折々の景観を楽しむことができる。

表 10.12.1-3(2) 景観資源の状況

番号	名称	位置	標高	資源特性	景観特性
8	大町公園 (動植物園)	市川市	約 26m	市川市動物園や鑑賞植物園を併設し、谷津の地形や湧水を活かした約 150ha の公園である。春にはバラ園のバラが咲き誇りイベントなどが行われる。また、夏にはホテル観賞会が開かれ多くの人で賑わっている。秋にはもみじ山のモミジなどの紅葉を楽しむことができ、四季を通じて自然と触れ合うことができる。	春のバラ、秋の紅葉等四季折々の景観を楽しむことができる。周囲には農地が広がっており、広い範囲から公園の樹林を見ることができる。
9	大柏川と 桜並木	市川市	約 7m	大柏川は、鎌ヶ谷市から市川市の北東部を通り、真間川と合流する河川である。川沿いには、3km 以上にわたり桜が植樹されており、市内で最も長いお花見スポットである。場所によっては、菜の花と桜の両方を楽しめる。	春の桜が見どころである。
10	文学の道 (桜土手公園)	市川市	約 3m	桜土手公園は、かつて真間川に流れ込む用水路脇の土手だったエリアを整備した公園である。文学の道は、市川市内を流れる真間川沿いにある道である。桜土手と昔から言われ、両側の堤には多くの桜が植樹されており、桜並木が約 400m 続く。	春の桜が見どころである。
11	大町周辺の森	市川市	約 25m	スギやヒノキなどの樹木で構成されている都市に残る自然景観。計画路線上に存在する。	特に見頃となる時期はないが、北総線の南側は農地が広がっており、広い範囲から見ることが出来る。
12	霊園と イチョウ並木	市川市	約 25m	市川市霊園は市川市東北部の大町公園に隣接した丘陵地帯に、緑と自然が溢れる墓地公園として、昭和 37 年に開園した。松や桜、数千本のツツジなど四季折々の花々に囲まれた約 26 万平方メートルの広大な園内に約 16,000 区画の普通墓地・芝生墓地が造成されている。近隣には緑地広場や市川市動植物園があり、情緒溢れ故人が安眠できる墓地公園として、また、市民の憩いの場として親しまれている。	霊園を訪れる人が四季折々の景観を楽しむことができる。
13	曾谷小学校の 桜並木	市川市	約 5m	曾谷小学校前には、60 本もの桜が植樹されており、桜並木が約 600m 続く。毎年、3 月下旬頃には桜まつりが開催されている。	春の桜が見どころである。
14	大柏川第一 調整池緑地	市川市	約 5m	棚池は調節池の掘り込み部に、大小 15 箇所の池を整備し、外周路は棚池区域を取り囲むようにあり、棚池区域が一望できる。また、緑地内での環境学習のための拠点となる施設として、大柏川ビジターセンターがあり、調節池の機能や自然の紹介、体験学習などの実施が可能である。さらに、野鳥観察場が北部広場の一角にあり、調節池の堤防肩から棚池地区を一望できる。	特に見頃となる時期はないが、水面と緑地の景観を楽しむことが出来る。
15	白幡神社と 高台からの眺め	市川市	約 21m	下総国国府に向う源頼朝公が馬を休め、衣をかけたという伝えのある「袖掛松之碑」の石碑がある。参道からの眺めもよく、東京スカイツリーが眺望できる。春には、高台の上の参道が満開の桜により彩られる。	春の桜が見どころである。高台になっており、周辺から樹林を見ることができる。
16	真間川と 桜並木	市川市	約 3m	市川市中央を流れる真間川沿いには、桜が植えられており、長い距離でのお花見が楽しめる。真間川沿いの桜並木は、昭和 24 年の市川市制 15 周年記念事業の一環として市内の中学生の手によって植えられたと伝えられており、真間川本川の境橋(国道 14 号)から国分川合流点までの区間(約 2.5km)に約 390 本のソメイヨシノが植樹されている。真間川下流部においては、3 月下旬から 4 月上旬に市民によるいちかわ真間川堤桜まつりが開催される。	春の桜が見どころである。

表 10.12.1-3(3) 景観資源の状況

番号	名称	位置	標高	資源特性	景観特性
17	弘法寺と伏姫桜	市川市	約 22m	弘法寺は、奈良時代天平九年行基菩薩が手児奈の霊を供養するために建立し「求法寺」と名づけた。その後、弘法大師が「弘法寺」と改称した。 弘法寺は、樹齢 400 年以上の枝垂れ桜である「伏姫桜」を有し、その他ソメイヨシノも植樹されており桜の名所となっている。	春の桜が見どころである。
18	曾谷貝塚	市川市	約 22m	曾谷貝塚は、今から 3,000~4,000 年くらい前の縄文時代も終わりの近いころ、縄文人が住居をつくり生活していた遺跡である。貝塚は、標高約 20~25m の下総台地に立地している。平らなところではなく、窪みの周りが北を除いて土手上に高くなっている少し起伏のある微地形を選んでいる。貝殻は、この U 字形の土手上の高まりに乗るように分布している。この土手上の高まりは、周辺ではここだけのもので、水はけが良い場所であつたらしく、縄文人はここに竪穴式住居をつくって住んでいた。 この曾谷貝塚は、「国史跡」として指定され、保護されている。	特に見頃となる時期はないが、広く草地となっている景観を楽しむことができる。
19	こざと公園	市川市	約 6m	大雨のときの洪水調整池の役目を兼ねてつくられた公園のため、公園の全部が水没することがある。	野鳥のスポットであり、池ではアヒルやカモ、魚類が見られる。
20	下総国分寺跡	市川市	約 20m	天平 13 年、聖武天皇によって発せられた「国分寺建設の詔」により、「金光明四天王護国之寺」として建立された。下総国分寺跡は、その詔によって建立された下総国分僧寺の跡で、現在の国分寺とほぼ同じ場所にあり、奈良県の法隆寺と同じ配置（法隆寺式伽藍配置）で、金堂・塔・講堂が建てられていた。	特に見頃となる時期はなく、草地となっている。
21	高圓寺 (藤まつり)	市川市	約 5m	高圓寺の境内には、「長寿藤」と呼ばれる花穂 1m 以上になる藤があり、樹齢 200 年ともいわれる幹から 4 本枝分かれしている一樹だけの藤である。 4 月下旬には藤まつりが開催され、花の時期には近隣から訪れる多くの参拝客や見物客で賑わう。	4 月下旬には、藤の花を楽しめる。
22	船橋県民の森	船橋市	約 24m	船橋県民の森は、千葉県内に 6 カ所ある「県民の森」という自然公園の一つ。里山の自然を活かした広い園内には周遊路が整備されており、東屋や花壇がある広場、運動広場、フィールドアスレチック、バーベキュー場などがある。月ごとに自然ウォッチングや工作体験等の多様なイベントがある。	里山の自然を活かした広い樹林地となっており、四季折々の景観を楽しむことができる。
23	ふなばし アンデルセン公園	船橋市	約 27m	ふなばしアンデルセン公園は、デンマークをイメージした有料テーマパーク。船橋市の市制 50 周年を記念し、昭和 62 年に「ワンパク王国」として開園、平成 8 年に現在のアンデルセン公園に新装開園した。敷地面積は東京ドーム約 8 個分であり、特色ある 5 つのゾーンから構成されている。 様々なイベントや四季の植物、緑豊かな憩いの場として、船橋市民はもちろん他県からも多くの人が訪れる。	四季の植物が見られ、緑豊かな憩いの場として、四季折々の景観を楽しむことができる。
24	昔ながらの 集落 (小野田町)	船橋市	約 16m	市の北東部を中心として、昔ながらの集落形態を受け継いだ農村集落が残り、長屋門が連なるなど、趣深いまちなみが広がっている。	特に見頃となる時期はないが、四季折々の景観を楽しむことができる。
25	昔ながらの 集落 (鈴身町)	船橋市	約 20m	市の北東部を中心として、昔ながらの集落形態を受け継いだ農村集落が残り、長屋門が連なるなど、趣深いまちなみが広がっている。	特に見頃となる時期はないが、四季折々の景観を楽しむことができる。

表 10.12.1-3(4) 景観資源の状況

番号	名称	位置	標高	資源特性	景観特性
26	船橋最北端 (田畑・果樹園)	船橋市	約 7m	船橋の最北端は田畑や果樹園が広がっている。この周辺の神崎川の水際や耕作地、用水路等では、運がよければ獣の足跡が見られることがある。普段、なかなか姿を見ないタヌキやイタチなども足跡などを通して、そこに生息していることを知ることができる。	特に見頃となる時期はないが、四季折々の景観を楽しむことができる。
27	神崎川沿いの道	船橋市	約 7m	市内の最北端を流れる神崎川に沿って、水田や畑が広がり、その先は斜面林が続いている。神崎川では、カワウ、ダイサギ、カルガモ、カワセミなどが、周辺の田畑では、ホオジロ、ヒバリ、タヒバリなどが見られる。	水田や畑が広がり、その先は斜面林が続いており、四季折々の景観を楽しむことができる。
28	小室調節池	船橋市	約 15m	調節池に沿うように進むと、西側に藤棚が見えてくる。池の道には、リョウブ、クサギ、ウワミズザクラ、ハリエンジュ、トチノキ、ヤブツバキ、シラカシ、ハコネウツギなど、たくさんの種類の木が見られる。水辺は水鳥やトンボの種類も多く、調節池ほとりの芝生でゆっくり休憩することもできる。	たくさんの種類の木が見られ、水辺は水鳥やトンボの種類も多く、四季折々の景観を楽しむことができる。
29	小室 4 号緑地	船橋市	約 12m	この公園のメタセコイアの林は、春の新緑の芽吹きと、秋の黄葉が見事になる。メタセコイアの外、入り口付近にはツバキが多数植えられ、少し奥に進むとハンノキが、一番奥まで進むとクヌギ、コナラの林が見られる。	種々の植栽が見られ、特にメタセコイアの新緑、黄葉が見どころである。
30	エノキと道祖神	船橋市	約 22m	周辺は田畑や梨園などの開けた風景が広がっている。その一角には、旅程の目安や木陰で休息が取れるように大きなエノキが一里塚として植えられており、その前には路傍の神様である道祖神が祭られている。周辺の畑ではヒバリやホオジロが見られる。	田畑や梨園などの開けた風景が広がっており、四季折々の景観を楽しむことができる。
31	高才川緑地公園	船橋市	約 8m	谷津地形の高台に位置する公園で、斜面上段の遊具広場からは、のどかな田園風景を一望できる。目の前の調整池では、カワウ、コガモ、コサギなどの水鳥が見られる。	谷津地形の高台から、のどかな田園風景を一望できる。
32	鈴身川沿いの道	船橋市	約 10m	鈴身川沿いの道を歩くと、川沿いに水田が、両側の斜面に林が広がる谷津の景観が広がっている。水田や周辺の用水路では、オオシオカラトンボなどのトンボの仲間や、トウキョウダルマガエル、ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエルなどのカエルの仲間や、カルガモやカワセミなどの水鳥が見られる。	川沿いの水田、両側の斜面に林が広がる谷津の四季折々の景観を楽しむことができる。
33	二重川沿いの道	船橋市	約 14m	船橋の中でも大きな河川のうちのひとつ、二重川沿いを散策できる道である。カルガモやカワウ、ダイサギ、カワセミなどの水鳥が見られるほか、周辺の草地ではホオジロ、カシラダカなども見られる。	特に見頃となる時期はなく、四季折々の景観を楽しむことができる。
34	ハンゲショウの湿地	船橋市	約 14m	県民の森から東に向かって歩くとハンゲショウが群生する湿地が見られる。ハンゲショウは湿地特有の植物で、半夏生と呼ばれる暦日(7月2日頃)のころ花が咲き、葉が白くなることからこの名前がついたといわれている。緑の湿地の中に目立つ白い葉は8月頃にはまた緑色に戻り、他の植物にまぎれてしまう。	8月頃、緑の湿地の中に目立つ白い葉が見られる。
35	丸山の森緑地	船橋市	約 11m	平成14年に誕生した約2.1haの雑木林。市民が手入れを行い、明るいくヌギ、コナラの雑木林が維持されている。チゴユリ、ヒメウズなどの山野草の他、メジロ、ツグミ、エナガなどの鳥も見ることができる。	明るいくヌギ、コナラの雑木林となっており、四季折々の景観を楽しむことができる。
36	高野台市民の森	船橋市	約 29m	高野台市民の森は、船橋市により設けられた都市計画緑地の一つ。市街地に位置した良好な樹林地となっている。	市街地に位置した良好な樹林地となっており、四季折々の景観を楽しむことができる。
37	高野台 3 丁目市民の森	船橋市	約 27m	高野台 3 丁目市民の森は、新京成電鉄新京成線鎌ヶ谷大仏駅から北東 2.8km に位置する。北東 0.1km には北総白井病院がある。	特に見頃となる時期はなく、四季折々の景観を楽しむことができる。

表 10.12.1-3(5) 景観資源の状況

番号	名称	位置	標高	資源特性	景観特性
38	八木が谷北市民の森	船橋市	約 25m	八木が谷北市民の森は新京成電鉄新京成線三咲駅より北へ1.7kmのところの位置し、八木が谷北小学校に隣接した良好な樹林地となっている。	特に見頃となる時期はなく、四季折々の景観を楽しむことができる。
39	立法山本覚寺	船橋市	約 21m	歴史ある本覚寺は日蓮宗の古刹である。小室集落の檀家による立派な本堂。春、斜面いっばいにオオムラサキツツジが咲き道行く人の目を楽しませ、心和ませる。	春のオオムラサキツツジが見どころである。
40	法井寺	船橋市	約 22m	妙玉山法井寺、日蓮宗の寺。「妙正大明神」という姥の姿をした抱瘡（ほうそう）の神様が祀られている。真新しい屋根が周辺の緑に映えて美しい景観になっている。	周囲には社寺林が広がり、四季折々の景観を楽しむことができる。
41	小室八幡神社	船橋市	約 9m	国道 464 号から赤い鳥居が見える八幡神社。祭神は応神天皇、武人の神様で小室の鎮守である。形良い狛犬に本殿は一間社流造（ながれづくり）。市指定樹林の境内はスダジイやケヤキの巨木。稲荷、妙見、駒形、天満宮などの末社が八幡神社を中心に東、西、南と離れ祀られている。	境内の樹林はスダジイやケヤキの巨木となっており、四季折々の景観を楽しむことができる。
42	戸定邸	松戸市	約 8m	水戸藩最後の藩主、徳川昭武が建てた戸定邸の敷地の内、約 3 分の 1 は戸定が丘歴史公園として整備され公開されている。公園内には徳川昭武と彼の兄徳川慶喜の資料を展示する戸定歴史館、徳川昭武が住んでいた戸定邸（国指定重要文化財）と庭園（国指定名勝）、昭和 53 年に松戸市が市制施行 35 周年を記念して建設したお茶室の松雲亭がある。	周囲は樹林で囲まれ、四季折々の景観を楽しむことができる。
43	浅間神社の極相林	松戸市	約 9m	浅間神社は、比高 20m の山頂にある、いわゆる山岳信仰の社である。変わった地形だが、地質時代に太日河（江戸川）の開析作用によって南側三矢小台の下総台地と分離し独立した台地と思われる。毎年 7 月 1 日の山開きの日が当神社の祭礼日である。周囲から独立した山岳という環境のためか、神域一帯はヤブニッケイがほぼ全域に高木（第一層）として繁茂し、後継樹として、タブノキ・ツバキ・ムクノキ・モミジ等 200 種類にも及ぶ草木が中木（第二層）、低木（第三層）として育つ、極めて自然の植物相を見せている。また、正面階段中央右側にはフジの大木が天高く伸びている。これらの極相林は、昭和 41 年、県の天然記念物に指定された。	自然の植物相が見られる台地となっており、周囲から四季折々の景観を楽しむことができる。
44	戸定が丘歴史公園	松戸市	約 7m	水戸藩最後の藩主であった徳川昭武が、明治 17 年に松戸別邸として江戸川を望む高台に建てた近世武家屋敷造りの建物である。8 棟の建物が連なる屋敷は、明治前期の大規模な上流住宅の姿を伝えるものとして、国の重要文化財に指定されている。庭園は、国の指定名勝に指定されている。昭武公の子息武定公が長く居住していたが、昭和 26 年、当邸を市民の文化施設として利用して欲しいという意向をもって、敷地二千百余坪、建物二百三十八坪を市に寄贈された。	戸定が丘歴史公園として整備され、桜、つつじ、紅葉、梅など、四季折々の花と緑を楽しむことができる。

表 10.12.1-3(6) 景観資源の状況

番号	名称	位置	標高	資源特性	景観特性
45	松戸中央公園	松戸市	約 26m	旧陸軍は、工兵のより高度な技術研修のため、相模台にあった松戸競馬場（船橋市・中山競馬場の前身）跡地に大正 6 年工兵学校を開校し、昭和 20 年 8 月まで存続させた。 煉瓦造の正門は、大正 9 年に造られたもので、市内に残る数少ない煉瓦建造物である。警備のための歩哨舎は、竣工当時木造だったが、昭和 2 年から昭和 10 年頃にコンクリート造にしたものである。 正門は、門柱頂部の門灯と門扉がなくなっているが、現存する門柱四基と歩哨舎が往時の様子を伝えている。 公園正門柱（旧陸軍工兵学校正門門柱）は、松戸市の市指定有形文化財である。	種々の木々が見られ、四季折々の花と緑を楽しむことができる。
46	栗山・矢切（斜面林）	松戸市	約 4m	松戸市の上矢切、中矢切、下矢切、栗山地区の 4 地区に存在する原生林で、斜面にクヌギやコナラをはじめとする 400 種類を越える植物が確認されている。 この樹林帯は地域の人々によって管理されてきたものであり、地域の環境や景観を象徴するものとして日常的に親しまれてきたものである。	松戸市の上矢切、中矢切、下矢切、栗山地区の 4 地区に存在する原生林で、広い範囲から四季折々の景観を楽しむことができる。
47	国分川沿い（斜面林）	松戸市	約 5m	斜面林は、土砂崩落の防止や湧き水の水源涵養機能等も担っている。斜面林の大部分はマツ林であったものが放置され、イヌシデ、クヌギ、コナラ、エゴノキ等の落葉広葉樹が混交する雑木林となり、多様な動植物の生息・生育場所となっている。	斜面林の大部分は落葉広葉樹が混交する雑木林となっており、四季折々の景観を楽しむことができる。
48	坂川	松戸市	約 4m	坂川は、再生事業が進み、多くの動植物が見られ、アユやカニ、ウナギ、ボラ、イトトンボ、サギ、カワウ、カモ等の生物を季節問わず観察することができる。 地域住民の活動も活発で、整備された川沿いの道に植樹が進んでいる。	松戸神社前にはソメイヨシノ、整備歩道沿いにはカワツサクラが植樹されており、2 月中旬頃から 4 月上旬頃が見頃となっている。
49	国分川	松戸市	約 5m	国分川は、千葉県松戸市、市川市を流れる利根川水系の一級河川である。 松戸市と市川市の市境近くに桜が植樹されている。	松戸市と市川市の市境近くに桜が植樹されており、4 月が見頃である。
50	矢切の農地	松戸市	約 3m	江戸川沿いに約 100ha の農地が広がっているとされ、市の特産品「矢切ねぎ」が栽培されている。矢切の渡しでは江戸川唯一の渡し舟が運行している。耕作放棄地がほとんどなく、良好な農地が生かされている場所である。	良好な農地が広がっており、四季折々の景観を楽しむことができる。
51	ふれあい松戸川	松戸市	約 2m	流水保全水路（ふれあい松戸川）は、1. 利水障害の解消（都市用水の取水が安全にできるようにする。）、2. 危機回避（有害な物質が江戸川に流出しないよう未然に防ぐ。）、3. 動植物の豊かな生息空間の創出（江戸川の水質改善を図り、生態系の保全創出を行う。）を目的としている。 曲がりくねった形になっており、川幅も浅く緩やかな流れになっている。川岸はなだらかな傾斜の岸辺にし、コンクリートは使わず木杭や石などの自然の素材を用いている。 入り江や浅瀬などを作り、水辺の景色に豊かな表情を与え、自然な川の姿となるように入り江や浅瀬を設け、水の中に生える水生植物やトンボのほかにも水鳥や魚などが利用できるよう工夫がされている。さらに春はレンゲ、秋はコスモスと市民が育てた花畑の「江戸川・松戸フラワーライン」がある。	水辺と緑の景観を楽しむことができる。 特に春のレンゲ、秋のコスモスと市民が育てた花畑の「江戸川・松戸フラワーライン」が見どころである。
52	野菊のこみち	松戸市	約 3m	野菊のこみちは、松戸市側の江戸川沿いにある、矢切・皮の一里塚付近の休憩所の隣にある。このみちの先には、「野菊の墓文学碑」、「野菊庵」がある。	道沿いに、農地、野菊が見られる。

表 10.12.1-3(7) 景観資源の状況

番号	名称	位置	標高	資源特性	景観特性
53	常盤平 けやき通り	松戸市	約 28m	新京成電鉄新京成線常盤平駅から約 1km にわたり、約 20m の高さのケヤキが、約 180 本植えられている。雄大な樹形の美しさは、見る人の心を和らげ街並みに風格をもたらしている。	緑のトンネルのような並木道を形成している。
54	松龍寺	松戸市	約 4m	慶長 8 年に高木九兵衛正次公が建立、開山。当時は根古屋一帯境内とする広大な敷地に松が亭々と高台にあるとても美観の良い所であったため、将軍家の鹿狩りの際は八代吉宗、十一代家齊、十二代家慶などが松龍寺を休憩場所として使われており、そこで葵の御紋の使用を許された名刹である。なお、山門は市の文化財に指定されている。	特に見頃となる時期はないが、四季折々の景観を楽しむことができる。
55	矢切神社	松戸市	約 20m	宝永元年 6 月 29 日の長雨により、江戸川が大洪水を起こし、水高が地面より約 2.5m となった。当時の矢切の民家は江戸川沿岸にあったため、多数の死者を出し、産業も甚大な被害を受けた。災害から逃れるように村民が台地上に移住し、鎮守として京都東山より稲荷を勧請して祀ったのが矢切神社である矢切村（上矢切、中矢切、下矢切）全体の総鎮守として香取神社があったが、この洪水を契機に上矢切に神明神社、下矢切に矢切神社が設けられ、香取神社は中矢切の鎮守となった。	社寺林に囲まれており、四季折々の景観を楽しむことができる。
56	高柳集落の 連なり	柏市	約 16m	斜面林の麓に立派なお屋敷や門、生け垣の農家が連なっている。	斜面林を周囲から見ることが出来る。
57	稲荷峠公園	柏市	約 23m	ゆるやかな勾配地形を活かし、森と広場・遊具が調和している。	桜が植えられており春には花見などをして楽しむことができる。
58	晴山幼稚園の 雑木林	柏市	約 28m	晴山幼稚園は昭和 54 年に、雑木林を切り開いて作られた。自然の中で子どもたちが明るく元気に遊ぶことができる。	ケヤキやブナ、ドングリの木など豊かな自然が残されており、四季折々の景観を楽しむことができる。
59	下総小金 中野牧跡・捕込	鎌ヶ谷市	約 27m	市域中央部の台地上は、江戸時代には小金牧のうちの中野牧の一部で、幕府の軍馬生産を知る上で重要である。牧場内の野馬を捕らえる施設である捕込は、小金牧のものとしては唯一現存するものとして貴重で、平成 19 年 2 月 6 日、国史跡に指定された。	樹林地となっており、四季折々の景観を楽しむことができる。
60	八幡・春日 神社の森	鎌ヶ谷市	約 24m	台地上の広い境内地が樹林で覆われ、東葛地方でも上位に属する鎮守の森として貴重で、市指定文化財。もともとスギやクロマツの人工林から始まったと考えられているが、現在では落葉・常緑の高木が多い。スギやムクノキは巨木に成長したものが多く、また、ヤブツバキが群生していて、冬季の開花は見事である。中沢地区の鎮守である。	市内では最大の鎮守の森として、四季折々の景観・樹林の変化を楽しむことができる。
61	根頭神社の森	鎌ヶ谷市	約 26m	台地上にある道野辺地区の鎮守の森で、市指定文化財。隣接する「市民の森」と一体となっている。スギ、ヒノキ、アカガシ、コブシなどの雑木林とそれを囲むスギ、ヒノキの人工林と構成されている。スタジイの巨木がある。	鎮守の森として、四季折々の景観・樹林の変化を楽しむことができる。
62	道野辺八幡 神社の森	鎌ヶ谷市	約 26m	神官が居住し、境内や参道の手入れが行き届いている。中心はスギ、ヒノキ林であるが、その中にクスギ、イヌシデなどの落葉樹、アカガシ、シラカシなどの常緑樹が混じる。参道にはソメイヨシノが植樹されている。古くは牧の範囲内であり、境内には村と牧との境に造られた二重の野馬除土手が残る。	神社林として、四季折々の景観・樹林の変化を楽しむことができる。
63	囃子水七面堂 の林 (囃子水公園)	鎌ヶ谷市	約 18m	台地辺縁部に位置する境内と斜面が一体となった林地で、規模は大きくないが、スギのほかヤマザクラ、コブシ、コナラ、シラカシなどが確認できる。台地下谷津頭の低地に囃子水公園が隣接しており、市内ではめずらしくなった湧水が見られ、親水公園として親しまれている。また、これにまつわる伝説が知られている。	神社林としての四季折々の景観・樹林の変化と水辺の景観を楽しむことができる。

表 10.12.1-3(8) 景観資源の状況

番号	名称	位置	標高	資源特性	景観特性
64	初富稲荷神社の林	鎌ケ谷市	約 28m	初富の開墾が始まった明治初年に京都の伏見稲荷神社から分霊を勧請して創立された。現在でも初富地区の鎮守である。境内には、野馬土手の一部が残るほか、スギ、ケヤキ、イチヨウなどの大きな樹木が見られる。初富開墾 100 年と 150 年記念の石碑も建てられている。	鎮守の森として、四季折々の景観・樹林の変化を楽しむことができる。特に、晩秋のイチヨウの黄葉が見事である。
65	豊作稲荷神社の林	鎌ケ谷市	約 27m	明治 6 年、初富開墾を担当した東京の商人湯浅七左衛門家の屋敷神を分祀して創立された。同社が管轄する市指定文化財は 4 件あり、そのうち、湯浅が奉納した手水鉢を見ることができる。	秋には社寺林の紅葉を楽しむことができる。
66	鎌ケ谷八幡神社の林	鎌ケ谷市	約 28m	木下街道の宿場として誕生した鎌ケ谷地区の鎮守として、寛永 6 年に創立されたと伝わっている。境内には石造物が多く伝わり、天保 12 年から翌年にかけて造立された百庚申と大仏十字路付近から移設された。寛政 7 年造立の庚申道標は市指定文化財。	秋には境内の樹木の紅葉を楽しむことができる。
67	八坂神社の林	鎌ケ谷市	約 27m	栗野地区の鎮守として、大永 3 年に創立されたと伝わっている。鳥居の前に多数の石塔が林立している。このうち庚申塔群は江戸時代中期の元禄 12 年から平成 27 年までの 43 基が現存し、幕末の安政 2 年からは 5 年毎に造立されている珍しい事例であることから、市指定文化財となっている。	鎮守の森として、四季折々の景観・樹林の変化を楽しむことができる。
68	日枝神社の林	鎌ケ谷市	約 24m	佐津間地区西部の台地上にある神社で、古くは「山王権現」と呼称された。規模は小さいが、隣接する斜面地ともに、ヤマザクラ、エゴノキ、ハリギリ、ヒサカキ、ノダフジなどが見られる。また、境内には、小規模であるが富士塚（浅間神社）が造営されている。	小規模な神社林ではあるが、四季折々の景観・樹林の変化を楽しむことができる。
69	谷地川八幡神社の林	鎌ケ谷市	約 16m	中沢地内の谷地川地区の鎮守である。シラカシ、イチヨウ、ケヤキ、スギなどが植樹されている。	秋には社寺林の黄葉を楽しむことができる。
70	キンモクセイ	鎌ケ谷市	不明	キンモクセイは市の木に指定され、市内各所に植樹され親しまれている。それらの中でも、栗野地区の個人宅敷地に見られるものは市内で最も大きいことから、昭和 60 年 9 月に鎌ケ谷市指定文化財となった。	樹形がきれいに整えられており、10 月初旬前後には、オレンジ色の小さな花を多数つけるとともに豊かな芳香を放つ。
71	海上自衛隊下総航空基地西側の桜並木	鎌ケ谷市	約 27m	海上自衛隊下総航空基地の西側約 1.4km の直進道路にソメイヨシノが立ち並んでいる。シーズン以外でも見通しの良い直線のため、ジョギングコースとして使用している人も散見される。	春の桜の時期が見頃である。
72	中沢白旗の湧水（ホテルの里）	鎌ケ谷市	約 10m	山裾から湧水があり、ホテルの生息地として保護されている。	四季折々の里山の景観を楽しむことができる。
73	貝柄山公園（湧水）	鎌ケ谷市	約 18m	貝柄山公園は、面積約 4.1ha で真間川水系根郷川の最上流に位置する公園である。かつては谷津田と呼ばれた湿地帯が広がっていた。周辺に縄文時代の貝塚が残っていたことから、「貝柄山公園」と名づけられている。公園の中心には長いひょうたん型の大小の池があり、水辺にはアヒル、ガチョウや水鳥が飛来し、訪れた人々を楽しませている。	公園内には桜や、メタセコイアが植栽されており、四季折々の景観を楽しむことができる。
74	樹林と畑（初富）	鎌ケ谷市	約 28m	鎌ケ谷市北部には、河川沿いには谷津等、多様な生物が生息できる環境としての水辺や樹林地が多数残っている。	樹林地に見られる多くの木々は樹高が高く、近隣に立地する農家や神社・寺院等の良好な背景となっている。
75	市民の森	鎌ケ谷市	約 27m	鎌ケ谷市民の森として憩いの場となっている。市民の森には市営のキャンプ場が併設されており、バーベキューやキャンプをして楽しむこともできる。	四季折々の樹林景観を楽しむことができる。

表 10.12.1-3(9) 景観資源の状況

番号	名称	位置	標高	資源特性	景観特性
76	佐津間城跡	鎌ヶ谷市	約 26m	佐津間城が築造された時期は戦国時代(16世紀中～後半頃)と推定されている。東側に大津川をのぞむ標高25mの台地上に築かれており、台地下の集落とは約9mの比高がある。土塁と空堀をめぐらせて、周囲を台地から遮断して郭を形成する単郭構造の城郭である。守備を主体としたようで、四方に張り出した構造の櫓台と、その櫓台を利用した横矢構造が確認され、郭の入口となる虎口の跡も残っている。また、こうした入口が村落側にあることは、城と村落が一体の関係であったことも推定される。周囲には屋敷裏、北根郷屋、南木戸などの城に関係する小字名も残っている。	台地となっており、周囲から広く見ることができ、四季折々の樹林景観を楽しむことができる。
77	市制記念公園	鎌ヶ谷市	約 20m	公園には、約200本の桜が植えられており、春には花見の人が多く集まる。入口には蒸気機関車や飛行機が展示してあるほか、バッテリーカーや船の形のアスレチックなど、子供達の遊び場も豊富で、野球場、テニスコートの貸出も行っている。	多くの木々が植えられ、四季折々の景観を楽しむことができる。特に春の桜が見どころである。
78	武西の谷津	印西市	約 23m	印西市の原風景を表すとともに多様な生物の生息生育環境となっている。また、これらを守り、活かすための市民団体の活動フィールドにもなっている。	寺社と一体的な鎮守の森や地域の巨樹・古木、桜並木などの景観が見られる。
79	中野牧野馬除土手	白井市	約 29m	近隣に残存する小金牧の野馬土手の一つ。江戸時代の富士地区は小金牧の一つである中野牧に含まれており、馬が放牧されていた。境界には馬が逃げ出さないようにするために野馬除土手が築かれた。白井市内にあった野馬除土手の多くは、牧の廃止とともに始まった開墾によって多くは消滅したが、この野馬除土手は、市内では保存状態が良好なものであり市指定文化財に登録されている。	四季折々の野馬土手の景観を楽しむことができる。
80	中木戸市民の森	白井市	約 23m	自然の樹木を生かしたつくりで、散策に適している。	自然の樹木の四季折々の景観を楽しむことができる。
81	富塚鳥見神社	白井市	約 25m	富塚鳥見神社は地区の産土様(うぶすなさま)である。創建の時期は不明だが、五枚の棟札が残っており、古いもので慶安3年のものがある。本殿、鳥見神社の切られ庚申、鳥見神社の歓喜天が市指定文化財となっている。現在の本殿は文化9年のものと考えられ、一間社流造で、総ケヤキの素木造となっており、本殿の随所には壮麗な彫刻が施されている。庇柱は県内でも類例の少ない竜の巻き付いた意匠が彫刻され、壁三面は全て二十四孝を題材とする彫刻で飾られている。	社寺林の四季折々の景観を楽しむことができる。
82	上長殿熊野神社	白井市	約 19m	伊饒那美命を祭神とする。本殿には牛若と天狗など彫刻がすばらしく、境内には町制施行20周年記念のカヤの木などの木が生い茂っている。	社寺林の四季折々の景観を楽しむことができる。
83	神々廻市民の森	白井市	約 12m	神々廻市民の森は、平成6年に開設された。原生的な森が広がっており、コナラの木、カエルやヒヨウモンチョウ等様々な動植物を観察することができる。また、夏になると、カブトムシやクワガタを観察できる。園路やベンチ、東屋といった施設が設けられており、市では開設以来、土地所有者の協力のもと神々廻市民の森を保全し、市民に開放している。周辺には、白井運動公園や白井市民プール、弁天池等があり、森林に囲まれた弁天池では、野鳥や花、シオカラトンボやモツゴ等の生物を観察できる。	原生的な森が広がっており四季折々の景観を楽しむことができる。

表 10.12.1-3(10) 景観資源の状況

番号	名称	位置	標高	資源特性	景観特性
84	西福寺	白井市	約 23m	天台宗の寺院で、阿弥陀如来を本尊とする。境内にある大きなイチョウは「乳房公孫樹」と呼ばれ、木の一部分を煎じて飲むと乳が出ることで信仰されている。	イチョウが黄葉する秋が見頃である。
85	北総線沿いの並木	白井市	約 20m	北総鉄道北総線・京成電鉄成田空港線沿いの法面に植栽がされており、桜も含まれている。	北総鉄道北総線・京成電鉄成田空港線の周辺から並木景観を楽しむ。特に4月の桜の時期が見頃である。

c) 主要な眺望景観の状況

眺望点からの主要な眺望景観の状況を表 10.12.1-4、身近な自然景観の状況を表 10.12.1-5 に示します。

表 10.12.1-4 主要な眺望景観の状況

分類	番号	名称	眺望景観の状況	視認できる景観資源
主要な眺望景観	A	アイ・リンクタウン展望施設	計画路線方向には下総国分寺跡や文学の道等が位置するが、眺望点から景観資源は眺望できない。	—
	B	里見公園からの東京・江戸川の眺め	公園北側の樹木に視野を遮られるため、計画路線方向の景観資源は眺望できない。なお、江戸川、東京方面は眺望できる。	—
	C	和洋学園のラウンジからの眺め	計画路線方向には、堀之内貝塚公園、国分川が位置し、堀之内貝塚公園を眺望できる。	堀之内貝塚公園
	D	曾谷の高台からの眺め	手前の住居に視野を遮られるため、計画路線方向の景観資源は眺望できない。	—
	E	白幡神社と高台からの眺め	境内には四季折々の草花が咲き、高台から市内を見渡すことができる。手前の住居や樹木に視野を遮られるため、計画路線方向の景観資源は眺望できない。	—
	F	北方小学校からの眺め	子之神社の緑や、春には桜並木が見渡せる。手前の住居等に視野を遮られるため、計画路線方向の景観資源は眺望できない。	—
	G	高才川緑地公園からの眺め	公園北側の樹木に視野を遮られるため、計画路線方向の景観資源は眺望できない。	—
	H	野菊苑展望台	西蓮寺から歩道橋を渡った先にある展望台で、富士山を眺望できる。樹木に視野を遮られるため、計画路線方向の景観資源は眺望できない。	—
	I	戸定邸	樹木に視野を遮られるため、計画路線方向の景観資源は眺望できない。	—
	J	江戸川河川敷一帯	周辺に広がる矢切の農地を眺望できる。	矢切の農地
	K	かまがやスカイビュー(鎌ヶ谷市役所屋上)	一部に遮蔽物となる建物があるものの全方位を望むことができ、貝柄山公園(湧水)、下総小金中野牧跡、八坂神社の林を眺望できる。計画路線方向には、筑波山及び市制記念公園が位置し、眺望できる。	貝柄山公園(湧水) 下総小金中野牧跡 八坂神社の林 市制記念公園
	L	市制記念公園	周辺の景観資源は園内の樹木等により眺望できない。	—

表 10.12.1-5 身近な自然景観の状況

分類	番号	名称	眺望景観の状況	視認できる景観資源
身近な自然景観	a	国分川	国分川を渡河する計画路線が視認される。	国分川
	b	大町小学校前	大町小学校校門前から、高架で通過する計画路線が視認される。	梨畑と梨作りの風景（大町地区）
	c	泉ヶ丘自治会館前	半地下構造で北総鉄道北総線・京成電鉄成田空港線と交差する、計画路線の側面が視認される。	大町周辺の森
	d	新鎌ふれあい公園	公園の北側に高架構造で通過する計画路線が視認される。	八坂神社の林
	e	北総線線路周辺	北総鉄道北総線・京成電鉄成田空港線の横断道路上から、計画路線が視認される。	北総線沿いの並木
	f	小室駅付近の橋	北総鉄道北総線・京成電鉄成田空港線の横断道路上から、計画路線が視認される。	北総線沿いの並木

2) 予測の結果

(1) 予測の手法

道路の存在に係る景観の予測は、「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所 資料第 714 号」(平成 25 年 3 月 国土技術政策総合研究所)に基づいて行いました。

a) 予測手順

道路の存在に係る景観の予測は、以下に示す項目毎に行いました。

(a) 主要な眺望点及び景観資源の改変

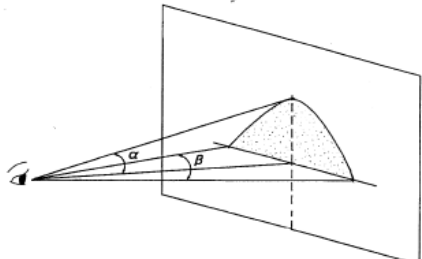
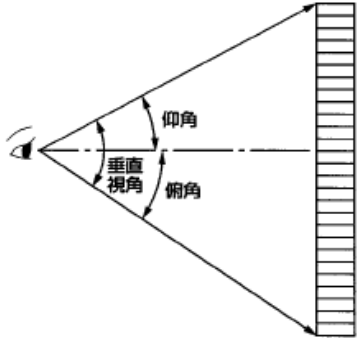
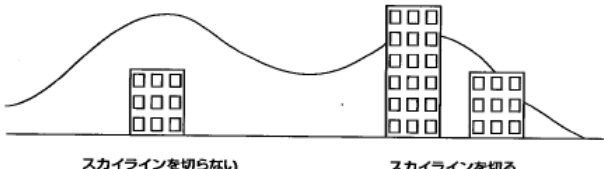
主要な眺望点及び景観資源と計画路線を重ね合わせ、図上解析することにより、改変の位置及び程度を把握しました。

(b) 主要な眺望景観の変化

フォトモンタージュ法*による視覚的な表現方法により、計画路線完成後の予想図を再現し、主要な眺望景観からの景観の変化の程度を把握しました。また、視覚に関する物理的指標について整理するとともに、必要に応じて主要な眺望景観からの景観の変化の程度を把握するための参考としました。視覚に関する物理的指標及び解析方法を表 10.12.1-6、表 10.12.1-7 に示します。

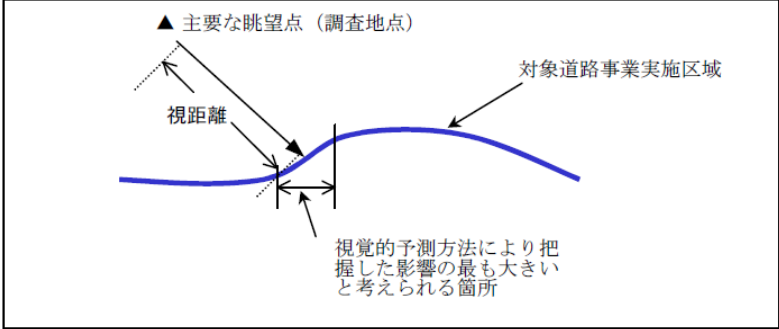
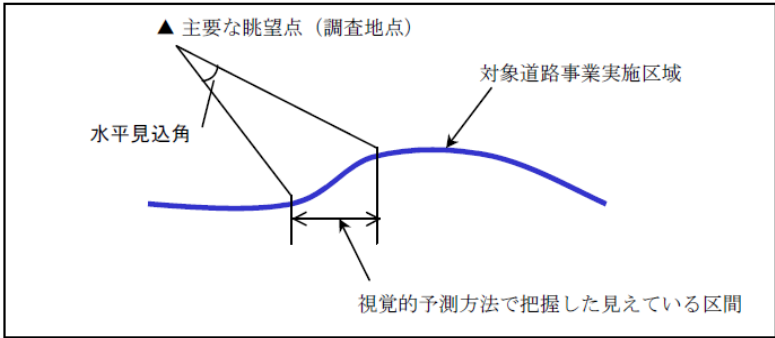
*フォトモンタージュ法とは、撮影した現状の写真上に、対象事業の完成予想図を合成して、眺望景観の変化を予測する方法。最も一般的に用いられている方法であり、再現性に優れ、適用範囲も広い。

表 10.12.1-6 視覚に関する物理的指標

指標	内容	
視距離	<p>視距離によって施設などの認知を規定する要因（テクスチャー、色彩、形態等）が変化するので、保全水準の達成の程度の判定及び保全対策の立案への指標としても役立つ。</p>	<p>景観の視距離を近景・中景・遠景と区分すると、この3区分は対象によってその絶対的距離は異なってくるが、概ね以下のような感覚でとらえられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○近景…対象の要素やディテールが目につきやすい領域（500m程度以内） ○中景…対象全体の形態がとらえやすく、対象が景観の主体となる領域（500m～3 km程度） ○遠景…対象が景観のごく一部となる領域（3 km程度以遠）
水平見込角	<p>視点からの対象の見えの大きさを表わす指標で、視点から対象を見込む水平見込角を指標値としている。</p>	<p>水平見込角が、10° を超えると対象構造物は目立つようになる。</p>  <p>α : 垂直視覚 β : 水平見込角</p>
仰角	<p>仰角とは、対象物の上端と視点を結ぶ線と水平線のなす角。構造物の見えの面積とほぼ比例関係にある仰角を圧迫感の指標として用いる。仰角が大きいと圧迫感を感じる。</p>	<p>仰角は 18° になると圧迫感が感じられ始め、30° では対象物が全視野を占め、圧迫感がのこる（メルテンスの法則）。また、俯角 10° 付近は俯瞰景観における中心領域であるといわれており、計画路線がその周辺に位置する場合は目につきやすくなる。</p> 
俯角	<p>対象物の下端と視点を結ぶ線と水平線のなす角。俯瞰景観においては、俯角が目につき易さの重要な指標となる。</p>	
スカイライン切断の有無	<p>スカイラインとは山が空を背景として描く輪郭線のこと。</p>	<p>人工物の出現により、スカイラインの連続性が切断された場合には、景観上の支障が大きくなるとされている。</p>  <p>スカイラインを切らない スカイラインを切る</p>

注) 引用文献 1)、4) 及び参考図書「自然環境アセスメント技術マニュアル」により作成。
出典：「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」
(平成25年3月 国土技術政策総合研究所)

表 10.12.1-7 物理的指標の解析方法

指標名	解析方法
視距離	<p>① フォトモンタージュ等の視覚的予測方法を用いて、影響の最も大きいと考えられる箇所を把握する。</p> <p>② 地形図に①で把握した箇所を示す。</p> <p>③ 主要な眺望点（調査地点）と②で示した箇所の距離を測定する。</p> 
水平見込角	<p>① フォトモンタージュ等の視覚的予測方法を用いて、計画路線が見えている区間を測定する。</p> <p>② 地形図に①で測定した区間を示す。</p> <p>③ ②で地形図上に示した区間の水平見込角を測定する。</p> 
仰角・俯角	<p>① フォトモンタージュ等の視覚的予測方法を用いて、影響の最も大きいと考えられる箇所を把握する。</p> <p>② 地形図に①で把握した箇所を示す。</p> <p>③ 主要な眺望点（調査地点）と②で示した箇所の標高データを地形図上で測定する。</p> <p>④ ③で測定した標高データと視距離より仰角（俯角）を算出する。</p>
スカイライン 切断の有無	<p>フォトモンタージュ等の視覚的予想方法を用いて、スカイラインの切断の有無を把握する。</p>

出典：「道路環境影響評価の技術手法 国土技術政策総合研究所資料第714号」
 （平成25年3月 国土技術政策総合研究所）

b) 予測地域及び予測地点

(a) 主要な眺望点及び景観資源の改変

予測地域は、調査地域のうち、主要な眺望点及び景観資源の改変が生じるおそれがある地域を選定しました。

表 10.12.1-8 景観の予測地域の選定（主要な眺望景観及び景観資源）

分類	番号	名称	景観資源
主要な眺望点	1	アイ・リンクタウン展望施設	—
	2	里見公園からの東京・江戸川の眺め	—
	3	和洋学園のラウンジからの眺め	堀之内貝塚公園
	4	曾谷の高台からの眺め	—
	5	白幡神社と高台からの眺め	—
	6	北方小学校からの眺め	—
	7	高才川緑地公園からの眺め	—
	8	野菊苑展望台	—
	9	戸定邸	—
	10	江戸川河川敷一帯	矢切の農地
	11	かまがやスカイビュー (鎌ヶ谷市役所屋上)	貝柄山公園（湧水） 下総小金中野牧跡 八坂神社の林 市制記念公園
	12	市制記念公園	—
身近な眺望点	13	国分川	国分川
	14	大町小学校前	梨畑と梨作りの風景（大町地区）
	15	泉ヶ丘自治会館前	大町周辺の森
	16	新鎌ふれあい公園	八坂神社の林
	17	北総線線路周辺	北総線沿いの並木
	18	小室駅付近の橋	北総線沿いの並木
景観資源	19	大町周辺の森	

(b) 主要な眺望景観の変化

予測地点は、調査地域のうち、景観の特性を踏まえ、主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域としました。予測地点の位置を表 10.12.1-9 及び図 10.12.1-2 に示します。

表 10.12.1-9 景観の予測地点の選定（主要な眺望景観及び景観資源）

分類	番号	名称	景観資源	計画路線の 可視・不可視	予測 対象	予測 地点 番号
主要な 眺望点	1	アイ・リンクタウン展望施設	—	不可視	×	—
	2	里見公園からの東京・江戸川の眺め	—	不可視	×	—
	3	和洋学園のラウンジからの眺め	堀之内貝塚公園	可視	○	ア
	4	曾谷の高台からの眺め	—	不可視	×	—
	5	白幡神社と高台からの眺め	—	不可視	×	—
	6	北方小学校からの眺め	—	不可視	×	—
	7	高才川緑地公園からの眺め	—	不可視	×	—
	8	野菊苑展望台	—	不可視	×	—
	9	戸定邸	—	不可視	×	—
	10	江戸川河川敷一帯	矢切の農地	不可視	×	—
	11	かまがやスカイビュー (鎌ヶ谷市役所屋上)	貝柄山公園（湧水） 下総小金中野牧跡 八坂神社の林 市制記念公園	可視	○	イ
	12	市制記念公園	—	不可視	×	—
身近な 眺望点	13	国分川	国分川	可視	○	ウ
	14	大町小学校前	梨畑と梨作りの風景 (大町地区)	可視	○	エ
	15	泉ヶ丘自治会館前	大町周辺の森	可視	○	オ
	16	新鎌ふれあい公園	八坂神社の林	可視	○	カ
	17	北総線線路周辺	北総線沿いの並木	可視	○	キ
	18	小室駅付近の橋	北総線沿いの並木	可視	○	ク
景観資源	19	大町周辺の森			○	a



この地図は、国土地理院発行の「1 : 50,000地形図、東京東北部（平成17年8月24日）・佐倉（平成10年9月1日）」を使用したものである。

- 凡 例
- 都市計画対象道路事業実施区域
 - 都県界
 - 市区界
 - 予測地点（主要な眺望点・身近な眺望点）
 - 予測地点（景観資源）
 - 撮影方向

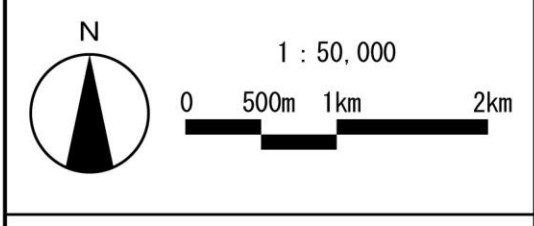


図 10.12.1-2 景観予測地点位置図

c) 予測対象時期

予測の対象時期は、計画路線の完成する時期において、主要な眺望点からの景観の利用状況（利用時期等）、景観資源の自然特性（見どころとなる時期等）を踏まえ、主要な眺望点、景観資源及び主要な眺望景観の影響を明らかにする上で適切な時期を設定しました。

(2) 予測結果

a) 主要な眺望点及び景観資源の改変

主要な眺望点及び景観資源と計画路線を重ね合わせ、図上解析した結果、主要な眺望点については、都市計画対象道路事業の実施による改変はありませんが、景観資源については、大町周辺の森が計画路線によって改変される結果になりました。景観資源の改変割合等を以下に示します。

(a) 大町周辺の森

景観資源である大町周辺の森の面積は約 5.3ha であり、計画路線における改変面積は約 1.5ha になります。このため、改変割合は 28%程度になることから、事業による影響が生じます。大町周辺の森と計画路線の改変状況を図 10.12.1-3 に示します。

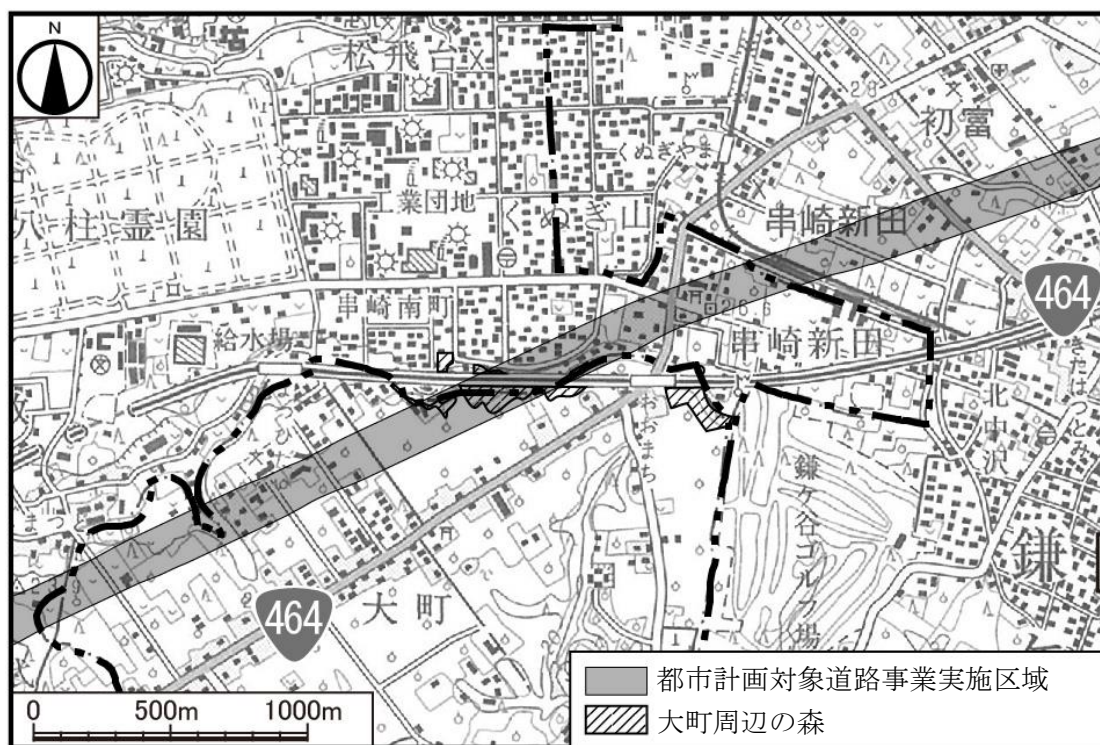


図 10.12.1-3 景観資源予測地点拡大図（大町周辺の森）

b) 主要な眺望景観の変化

(a) 主要な眺望景観の変化

都市計画対象道路事業の実施により主要な眺望景観の変化が生じると想定される主要な眺望点において、フォトモンタージュ法により主要な眺望景観の変化の程度を予想しました。

ア. 和洋学園のラウンジからの眺め

本眺望景観は、和洋学園のラウンジから北東方向に景観資源である堀之内貝塚公園を眺望しています。計画路線のうち高架部が眺望の中央付近の視野に含まれますが、可視の程度は極めて小さいです。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は中景に位置しており、水平見込角は 2.4 度と構造物は目立たず、フォトモンタージュによる結果からも、景観資源である堀之内貝塚公園の眺望にほとんど変化はありません。また、俯角は 0.2 度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じません。このため、景観資源の眺望を障害しないと予測します。物理指標による解析結果を表 10.12.1-10(1)に示します。

表 10.12.1-10(1) 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 2,900m
水平見込角	2.4°
仰角	0°
俯角	0.2°
スカイライン切断	なし

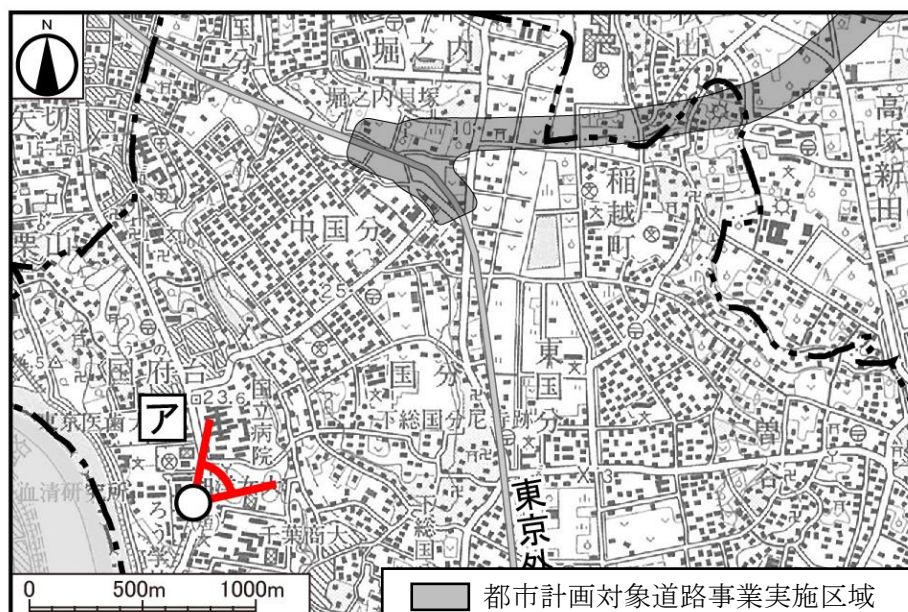


図 10.12.1-4 景観予測地点拡大図（和洋学園のラウンジからの眺め）

現在の風景	
将来の風景	
変更される位置	

撮影条件	
撮影日	平成 31 年 4 月 23 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D750
レンズ焦点距離	28mm

写真 10.12.1-1(1) 主要な眺望景観の変化（和洋学園のラウンジからの眺め）

イ. かまがやスカイビュー

本眺望景観は、かまがやスカイビューから北東方向に景観資源である貝柄山公園（湧水）、下総小金中野牧跡、八坂神社の林、市制記念公園を眺望しています。計画路線のうち高架部が眺望の中央付近を横断する形で視野に含まれますが、可視の程度は小さいです。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は中景に位置しており、水平見込角は 4.5 度と構造物は目立たず、フォトモンタージュによる結果からも、景観資源である貝柄山公園（湧水）、下総小金中野牧跡、八坂神社の林、市制記念公園の眺望にほとんど変化はありません。また、俯角は 1.0 度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じません。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測します。物理指標による解析結果を表 10.12.1-10(2)に示します。

表 10.12.1-10(2) 視覚に関する物理的指標による解析結果

指 標	内 容
視距離	約 1,700m
水平見込角	4.5°
仰角	0°
俯角	1.0°
スカイライン切断	なし



図 10.12.1-5 景観予測地点拡大図（かまがやスカイビュー）

現在の風景	
将来の風景	
改変される位置	

撮影条件	
撮影日	令和元年 8 月 9 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D3100
レンズ焦点距離	27mm

写真 10.12.1-1(2) 主要な眺望景観の変化（かがやスカイビュー）

ウ. 国分川

本眺望景観は、国分川の眺望点から南方向に景観資源である国分川を眺望しています。計画路線のうち橋梁部が眺望の中央部分を横断する形で視野に含まれます。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は 23.2 度と構造物は目立つ値となっています。また、俯角は 4.5 度と俯瞰景観の中心領域から外れているものの、スカイラインが一部わずかに切断されます。フォトモンタージュからは、構造物が国分川の眺望に重なる状況が見られます。フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは、構造物は目立つものと予測され、一部景観資源と重なる部分があることから、景観の構成に変化が生じると予測します。物理指標による解析結果を表 10.12.1-10(3)に示します。

表 10.12.1-10(3) 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 70m
水平見込角	23.2°
仰角	0°
俯角	4.5°
スカイライン切断	あり

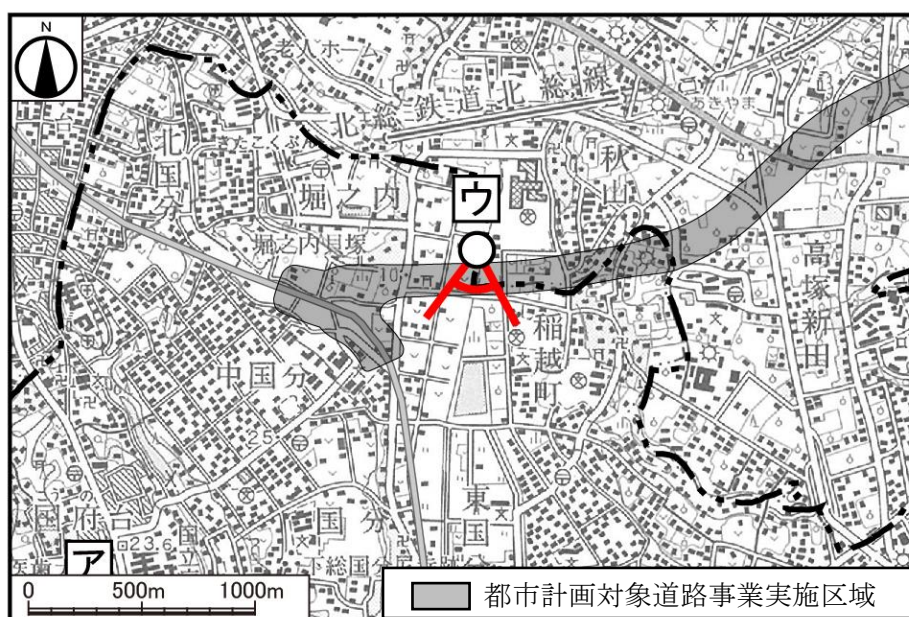


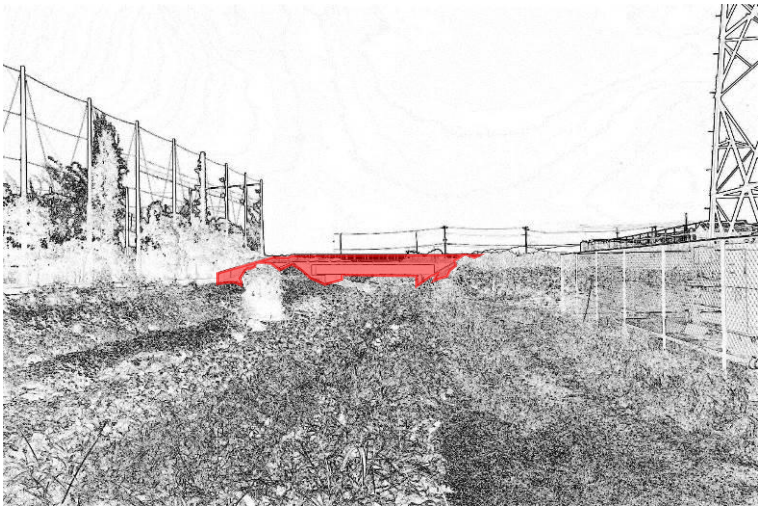


図 10.12.1-6 景観予測地点拡大図（国分川）

現在の風景	
将来の風景	
変更される位置	

撮影条件	
撮影日	令和元年9月11日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D750
レンズ焦点距離	28mm

写真 10.12.1-1(3) 主要な眺望景観の変化(国分川)

エ. 大町小学校前

本眺望景観は、市川市立大町小学校の眺望点から南方向に景観資源である梨畑を眺望しています。計画路線のうち高架部が眺望の中央部分を横断する形で視野に含まれます。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は 36.2 度と構造物は目立つ値となっています。フォトモンタージュによる結果から確認すると、景観資源である梨畑の奥を計画路線が横断するため眺望に変化が生じます。また、仰角は 15.1 度と圧迫感が生じない角度となっていますが、スカイラインの切断が生じます。このため、景観の構成に変化が生じると予測します。物理指標による解析結果を表 10.12.1-10(4)に示します。

表 10.12.1-10(4) 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 60m
水平見込角	36.2°
仰角	15.1°
俯角	1.4°
スカイライン切断	あり

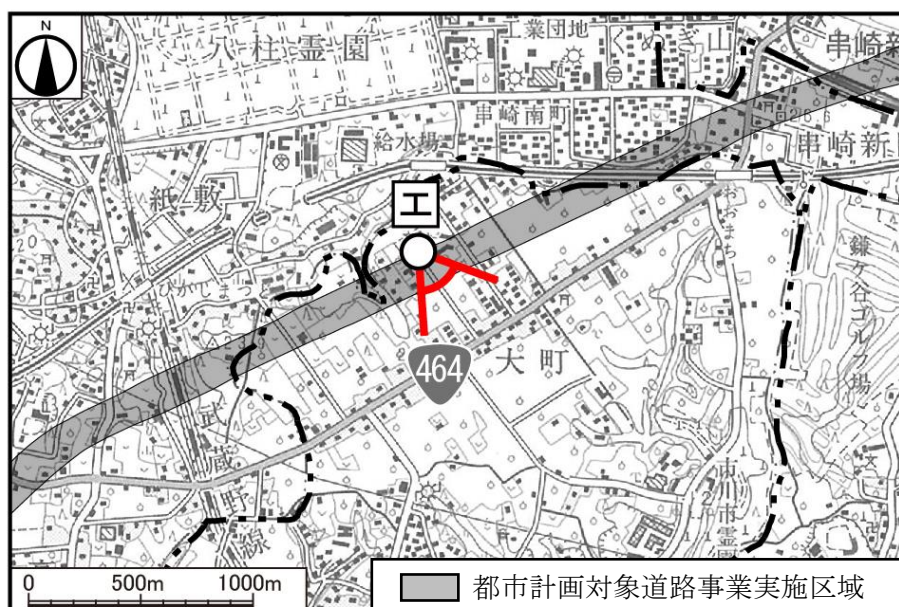


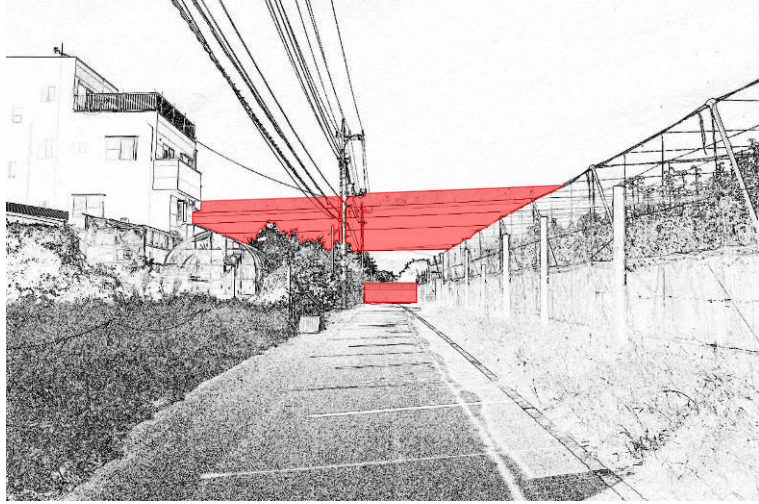


図 10.12.1-7 景観予測地点拡大図（大町小学校前）

<p>現在の風景</p>	
<p>将来の風景</p>	
<p>変更される位置</p>	

撮影条件	
撮影日	令和元年 10 月 23 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D7200
レンズ焦点距離	27mm

写真 10.12.1-1(4) 主要な眺望景観の変化（大町小学校前）

オ. 泉ヶ丘自治会館前

本眺望景観は、松戸市にある泉ヶ丘自治会の会館から東方向の大大町周辺の森を眺望しています。計画路線のうち半地下構造の側面が眺望の中央部で視野に含まれますが、可視の程度はごく小さいです。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は 2.2 度と構造物は目立たず、フォトモンタージュによる結果から確認すると、可視部分はごくわずかであり、景観資源である大大町周辺の森の眺望にほとんど変化はありません。また、俯角は 0.1 度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断も生じません。このため、景観資源の眺望を阻害しないと予測されます。物理指標による解析結果を表 10.12.1-10(5)に示します。

表 10.12.1-10(5) 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 30m
水平見込角	2.2°
仰角	2.2°
俯角	0.1°
スカイライン切断	なし

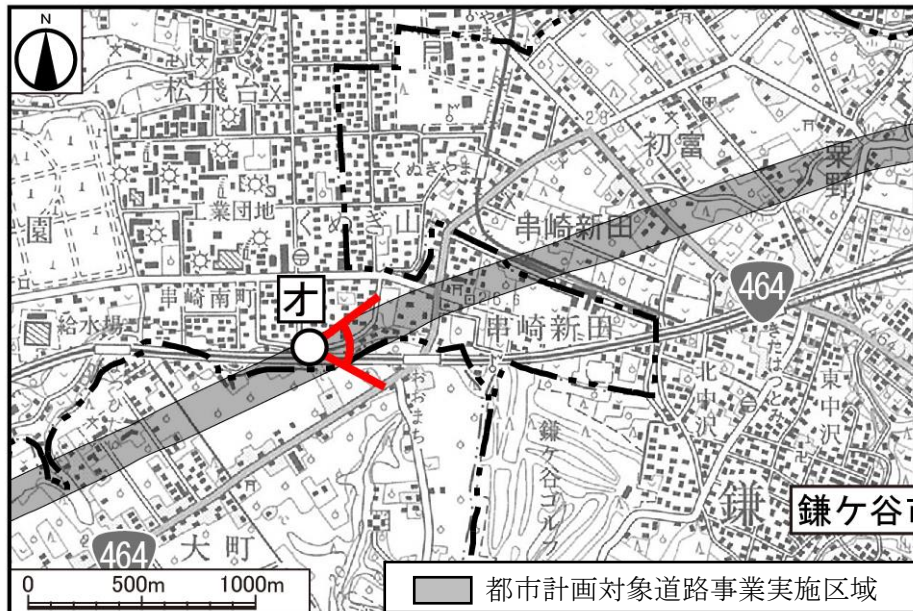


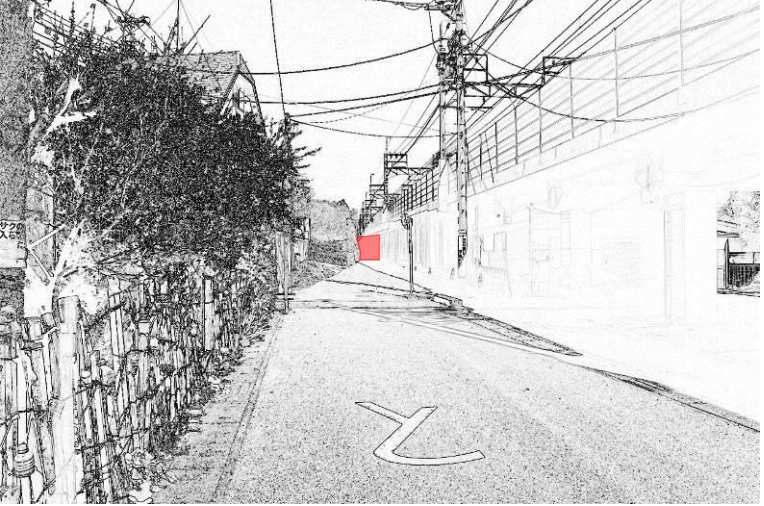


図 10.12.1-8 景観予測地点拡大図（泉ヶ丘自治会館前）

現在の風景	
将来の風景	
変更される位置	

撮影条件	
撮影日	平成 31 年 4 月 3 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D7200
レンズ焦点距離	27mm

写真 10.12.1-1(5) 主要な眺望景観の変化（泉ヶ丘自治会館前）

カ. 新鎌ふれあい公園



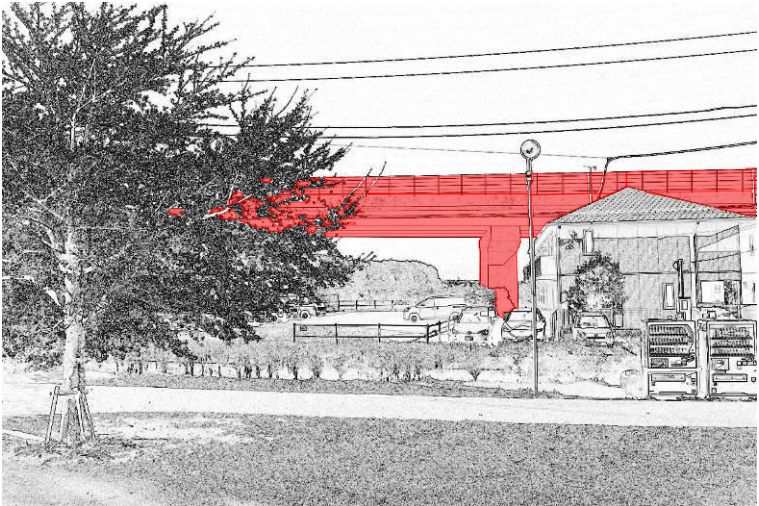
本眺望景観は、新鎌ふれあい公園から北方向に景観資源である八坂神社の林を眺望しています。計画路線のうち高架部が眺望の視野の中央に含まれます。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は44.0度と構造物は圧迫感が感じられる値となっており、フォトモンタージュによる結果からも、可視部分が大きく、眺望に変化が生じます。また、仰角は8.4度であるものの、スカイラインの切断が生じます。このため、景観の構成に変化が生じると予測します。物理指標による解析結果を表10.12.1-10(6)に示します。

表 10.12.1-10(6) 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約 80m
水平見込角	44.0°
仰角	8.4°
俯角	5.2°
スカイライン切断	あり



図 10.12.1-9 景観予測地点拡大図（新鎌ふれあい公園）

現在の風景	
将来の風景	
変更される位置	

撮影条件	
撮影日	平成 31 年 4 月 2 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D3100
レンズ焦点距離	27mm

写真 10.12.1-1(6) 主要な眺望景観の変化（新鎌ふれあい公園）

キ. 北総線線路周辺

本眺望景観は、北総鉄道北総線・京成電鉄成田空港線の横断道路から西方向に景観資源である北総線沿いの並木を眺望しています。計画路線のうち切土部が眺望の中央部で視野に含まれ、可視の程度は大きいです。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は 68.0 度と構造物は目立つ値となっており、フォトモンタージュによる結果からも、可視部分は大きく、景観の構成に変化が生じます。ただし、俯角は 25.2 度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断は生じません。物理指標による解析結果を表 10.12.1-10(7)に示します。

表 10.12.1-10(7) 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	0m
水平見込角	68.0°
仰角	0.1°
俯角	25.2°
スカイライン切断	なし

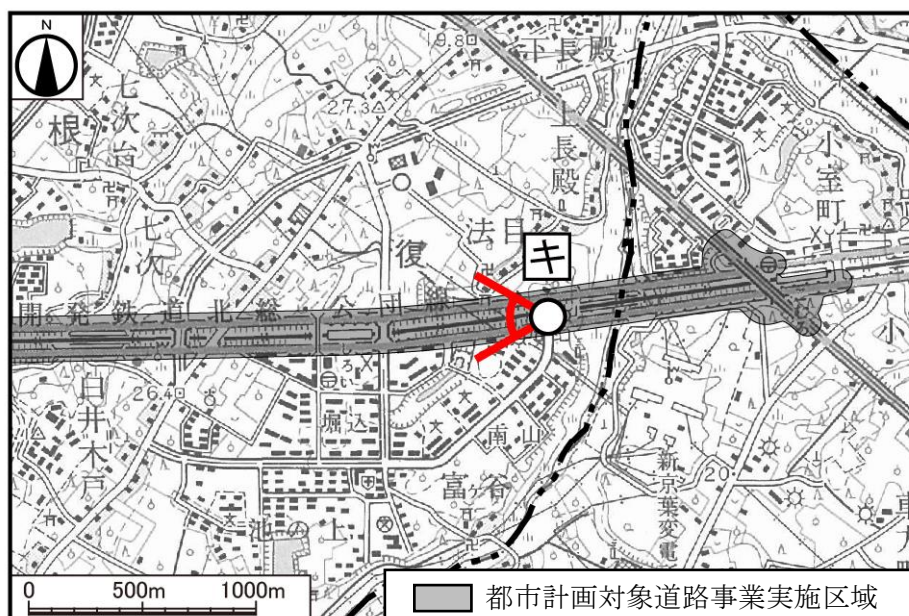


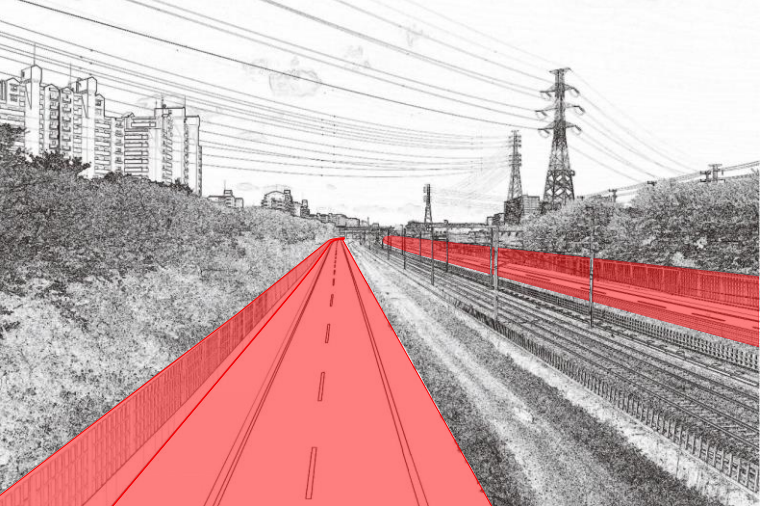


図 10.12.1-10 景観予測地点拡大図（北総線線路周辺）

現在の風景	
将来の風景	
変更される位置	

撮影条件	
撮影日	平成 31 年 4 月 9 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D3100
レンズ焦点距離	27mm

写真 10.12.1-1(7) 主要な眺望景観の変化（北総線線路周辺）

ク. 小室駅付近の橋

本眺望景観は、小室駅付近の橋から西方向に景観資源である北総線沿いの並木を眺望しています。計画路線のうち切土部が眺望の中央部で視野に含まれ、可視の程度は大きいです。なお、物理指標による解析結果によると、計画路線は近景に位置しており、水平見込角は48.5度と構造物は目立つ値となっており、フォトモンタージュによる結果からも、可視部分は大きく、景観の構成に変化が生じます。なお、俯角は25.4度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断は生じません。物理指標による解析結果を表 10.12.1-10(8)に示します。

表 10.12.1-10(8) 視覚に関する物理的指標による解析結果

指 標	内 容
視距離	0m
水平見込角	48.5°
仰角	2.4°
俯角	25.4°
スカイライン切断	なし

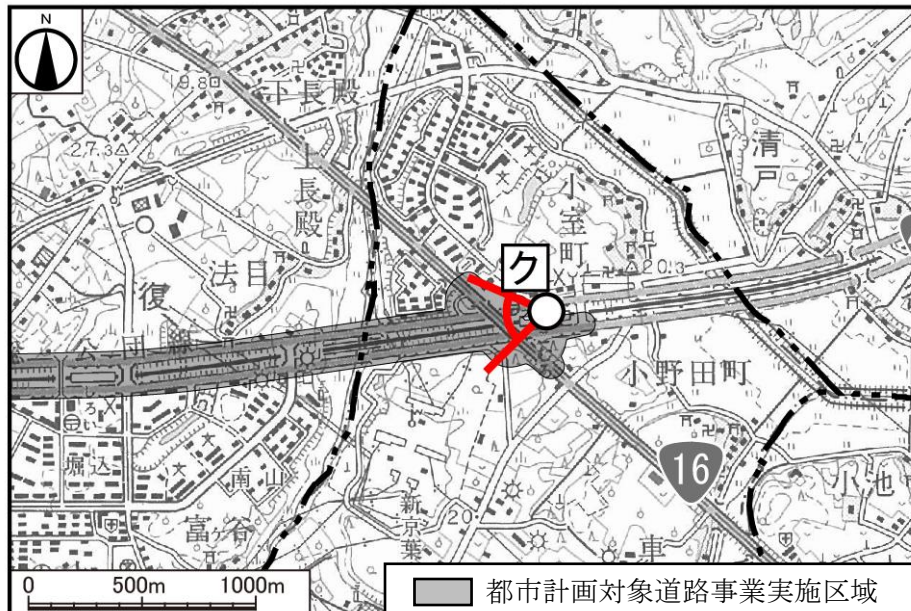





図 10.12.1-11 景観予測地点拡大図（小室駅付近の橋）

現在の風景	
将来の風景	
変更される位置	

撮影条件	
撮影日	平成 31 年 4 月 9 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D3100
レンズ焦点距離	27mm

写真 10.12.1-1(8) 主要な眺望景観の変化（小室駅付近の橋）

3) 環境保全措置の検討

(1) 保全対象

本事業により、直接改変される景観資源及び景観の構成に変化が生じると予測した眺望点を保全対象としました。このほか、特定の眺望点のみでなく、計画路線全域を対象とする環境保全措置についても検討することとしました。環境保全措置の検討対象を表 10.12.1-11 に示します。

表 10.12.1-11 環境保全措置の検討対象

	対象とした地点	視距離
景観資源	大町周辺の森	—
眺望点	国分川	約 70m
	大町小学校前	約 60m
	新鎌ふれあい公園	約 80m
	北総線線路周辺	0m
	小室駅付近の橋	0m

(2) 環境保全措置の検討

予測結果より、道路の存在に係る景観の影響を低減するための環境保全措置について、保全措置の効果や不確実性、他の環境への影響を含め検討した結果、「地形改変の最小化」、「構造物（橋梁等）の形式、デザイン、色彩の配慮」、「のり面等の緑化」及び「道路付属物（照明ポール、立入防止柵等）の形状、デザイン、色彩の配慮（近景域における影響の場合）」を採用します。検討した環境保全措置を表 10.12.1-12 に示します。

表 10.12.1-12 環境保全措置の検討

環境保全措置	対象とした 景観資源及び眺望点	採用・不採用	採用・不採用の理由
地形改変の最小化	大町周辺の森	採用	直接改変域を低減するために、擁壁構造を採用することで、効果が確実に見込めることから、本環境保全措置を採用する。
構造物（橋梁等）の形式、デザイン、色彩の配慮	国分川 大町小学校前 新鎌ふれあい公園 大町周辺の森	採用	周辺景観に調和させることができることから、本環境保全措置を採用する。
ラウンディングによる周辺地形との調和	特定の地点を想定していない	不採用	周辺景観に調和させることができ、効果が確実に見込めるが、動物・植物・生態系への影響を考慮し、本環境保全措置を採用しない。
のり面等の緑化	特定の地点を想定していない	採用	周辺景観に調和させることができ、効果が確実に見込めることから、本環境保全措置を採用する。
道路付属物（照明ポール、立入防止柵等）の形状、デザイン、色彩の配慮（近景域における影響の場合）	北総線線路周辺 小室駅付近の橋	採用	周辺景観に調和させることができ、効果が確実に見込めることから、本環境保全措置を採用する。

(3) 検討結果の検証

実施事例等により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断されます。

(4) 検討結果の整理

環境保全措置に採用した「地形改変の最小化」、「構造物（橋梁等）の形式、デザイン、色彩の配慮」、「のり面等の緑化」及び「道路付属物（照明ポール、立入防止柵等）の形状、デザイン、色彩の配慮（近景域における影響の場合）」の効果、実施位置、他の環境への影響について整理した結果を表 10.12.1-13 に示します。

なお、構造、デザイン等については、橋梁の桁厚を薄くする等について検討します。遮音壁を含む道路付属物についても、周辺地域と調和するよう、デザイン及び色彩等に配慮します。

また、環境保全措置の具体化にあたっては、実施主体である事業者が、事業実施段階において専門家等の意見を聴取しながら適切に行うものとします。

表 10.12.1-13(1) 検討結果の整理

実施内容	種類	地形改変の最小化
	位置	対象景観資源（大町周辺の森）付近
環境保全措置の効果		直接改変域の低減が見込まれる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		特になし

表 10.12.1-13(2) 検討結果の整理

実施内容	種類	構造物（橋梁等）の形式、デザイン、色彩の配慮
	位置	対象地点（大町周辺の森・国分川・大町小学校前・新鎌ふれあい公園）付近
環境保全措置の効果		周辺景観に調和させることができる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		人と自然との触れ合いの活動の場への影響も低減される。

表 10.12.1-13(3) 検討結果の整理

実施内容	種類	のり面等の緑化
	位置	特定の地点を想定していない
環境保全措置の効果		周辺景観に調和させることができる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		特になし

表 10.12.1-13(4) 検討結果の整理

実施内容	種類	道路付属物（照明ポール、立入防止柵等）の形状、デザイン、色彩の配慮（近景域における影響の場合）
	位置	対象眺望点（北総線線路周辺・小室駅付近の橋）付近
環境保全措置の効果		周辺景観に調和させることができる。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		人と自然との触れ合いの活動の場への影響も低減される。

4) 事後調査

予測手法は図上解析による改変の位置、程度の把握、主要な眺望景観の変化を把握するフォトモンタージュ等、多くの実績を有する手法であり、予測の不確実性が小さいと考えられています。また、採用した環境保全措置についても効果にかかる知見が十分に把握されているものと判断でき、効果の不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しないものとします。

5) 評価

(1) 回避又は低減に係る評価

計画路線は新設されるものであるため、道路の存在に伴い眺望景観の変化が新たに生じますが、計画路線は道路の計画段階において、改変量を極力抑えた計画としており、景観への環境負荷の回避又は低減を図っています。

さらに、環境保全措置として、「地形改変の最小化」、「構造物（橋梁等）の形式、デザイン、色彩の配慮」、「のり面等の緑化」及び「道路付属物（照明ポール、立入防止柵等）の形状、デザイン、色彩の配慮（近景域における影響の場合）」を実施することにより、環境影響のできる限り低減を図ります。

このことから、環境影響は事業者の実行可能な範囲でできる限り回避又は低減されているものと評価します。

なお、北総線沿いの並木については、工事の実施にあたり一部撤去することが考えられますが、工事用道路の位置等に配慮し、極力、並木を残すよう検討します。